

令和元年度アーバンデザインスクール前期第4回実績報告書

(1) 開催日時

令和元年9月27日（金） 18時30分～20時

参加人数：15名

(2) テーマ

「アーバンデザイン講座」 スモールアーバニズム

(3) 話題提供者

阿部大輔（龍谷大学政策学部教授）

(4) 話題の概要

- 昨年出版された『アーバンデザイン講座』（彰国社）の著者全員によるシリーズ講義として、及川清昭氏（UDCBK センター長・立命館大学理工学部特命教授）にコーディネート頂く「アーバンデザイン講座」。

第4回は、阿部氏に「スモールアーバニズム」をテーマに話題提供頂いた。

- スモールアーバニズムとは

- アーバンデザインは成果が実感できるまでに長い時間がかかる。
- まちかどレベルの身近な空間を実験的に使ってみながら、都市の構想へと繋げていくスモールアーバニズムの動きが盛んである。
- 各種政策マスタープランは10～15年程度のスパン。その間に状況は変わってしまう場合もある。
- ボトムアップで身近な点から空間を再生する動きが浸透しつつある。
- スモールアーバニズムは、まずは界隈の抱える現実的な問題解決から着手し、一定の成果を収めてから都市全体との接続を図るという考え方。



- プレイスメイキング

- 都市空間は設計者の意図通りに使われないことも多い。美的観点だけでなく、利用や活用の観点が大切。2つの観点の統合が必要。
- その場所らしさが宿るような仕掛けをしていくことがプレイスメイキング。

- POWER OF 10という考え方

- 都市にはプロモートすべき10の重要なエリアがある。さらに、その中に10の重要な場所がある。それぞれの場所では10の心地よいアクティビティが生まれているべきである。
- エンドユーザーの使う発想から、改めてその場をつくり、愛着を生む。



- 道路空間の再配分

- 従来自動車交通の移動空間でしかなかったが、道路ごとに誰が主役なのかを明確にし、道路空間を有効活用している事例がある。
- 例えば四条通は4車線を2車線に減らし、歩道を拡大。より歩きやすい空間を実現している。

- 都市の鍼治療

- 凝り固まった市街地環境を「ほぐす」べく、都市内の重要な箇所(=点)に介入し、その「点」がじわじわと周辺に波及していく都市計画戦略。
- ちゃんとツボを見つけて介入していくことが大事。
- 都市空間の暫定利用(5年間貸してもらうなど)による、都市空間再編の試みも行われている。

- ソフトアーバニズム

- 都市・地域の中に建築・公共空間・アートを仕掛け、それらが周辺環境と呼応し新たなリエゾン(結びつき)をもたらすことを狙うアプローチ。
- アートの中で、都市・地域が本来有する固有の魅力を顕在化させる仕組み。(アート・プロジェクト) 例えば直島。
- アーティストがその地に滞在しながら制作を行う。アーティストへの創造活動の支援を図りつつ、住民がアートを身近に感じるきっかけづくり。(アーティスト・イン・レジデンス)
- 人と人の繋がり方やその仕組みをデザインすること。(コミュニティ・デザイン)

(5) 主な質疑応答

- 都市の鍼治療的に大津が変わっていくには、どうしたら良いと思うか？
 - 大津市は琵琶湖の公園の魅力に気づいている。空間の魅力に自覚的になっている。
 - 大津は町家が京都より大きい。
 - 京都に隣接している地の利をどう使うか？
 - よい動きは出てきているので、全体像の発信を市はやっていくべきだと考えられる。

- 水辺の利活用について。草津は水辺と駅（および市街地）が近くない。賑わいの創出はできるか？
 - 必ずしも賑わっていないから心地よいことも。
 - 賑わい方にもいろいろあり、一過性のイベントとしての賑わいや、散歩している人がすれ違う程度の賑わいなど。
 - 賑わい至上主義にならなくても、軸を考えていけばよいのではないか。

- 15年スパンのマスタープランを途中で見直すとか、計画を成長させていっている事例はあるのか？
 - ラテン系都市では、マスタープランはあるが、状況に応じて少しずつ都市を変えていっている事例がある。ただし、全体としてのバランスが取れなくなるという批判もある。
 - デトロイトではマスターコンセプトといって、大まかな方針だけを決めている。そのようにゆるやかにやる潮流はある。
 - マスタープラン自体の考え方、作り方を変えていくべきだと考えられる。

- 草津川跡地公園の de 愛ひろばは、キャッチボールができない。硬球はさすがに危ないが、柔らかいボールで子どもが遊んでいるのは微笑ましい光景でもある。そのあたりはどのように思うか？
 - 市民の声と管理のロジックを合わせると、禁止になる。ただし禁止から育つことは何もない。
 - どういう都市であるべきか、コンセプトレベルで議論しておく必要がある。
 - まちって色々やっていいんだ、寛容の方が楽しいんだという体験ができる場づくりを考えていく必要がある。
 - ルールで縛るよりも、都市のコモンセンスを育てていく場がたくさんあるまちは強い。

- 都市をシェアするという感覚を持てるような実例が増えてくると良いと思う。
- 地域に愛着を持って、地域で過ごすことをコンセプトに活動しているが、そのような活動を経済的に続けていくにはどうすればよいか？
 - より安くどう活動するかという発想も大切。
 - 持続的にお金がまわる仕組みがないと厳しい部分もあるが、ない中でどう知恵を絞るかを考える必要がある。

(6) まとめ

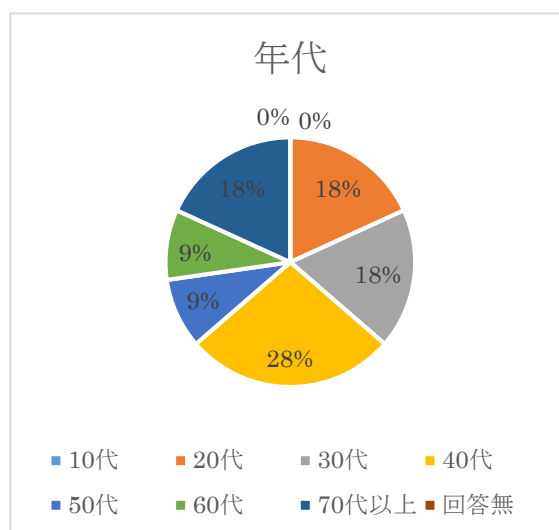
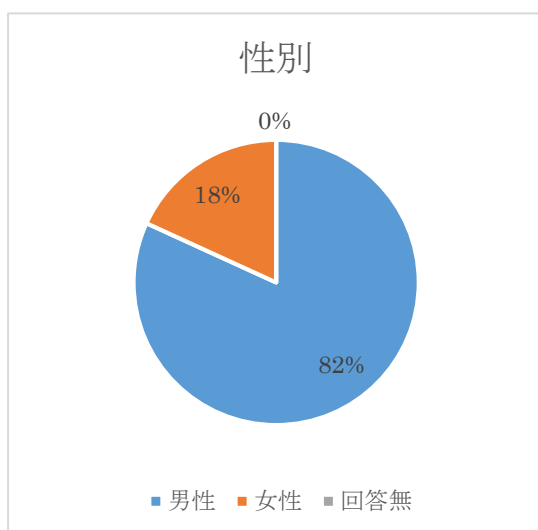
今回の講義で学んだスモールアーバニズムは、身近でとてもイメージしやすいアーバンデザインと言える。特に、その場所らしさが宿るような仕掛けをしていくというプレイスメイキングは、参加者自身の所有地等でも取り入れていける考え方である。

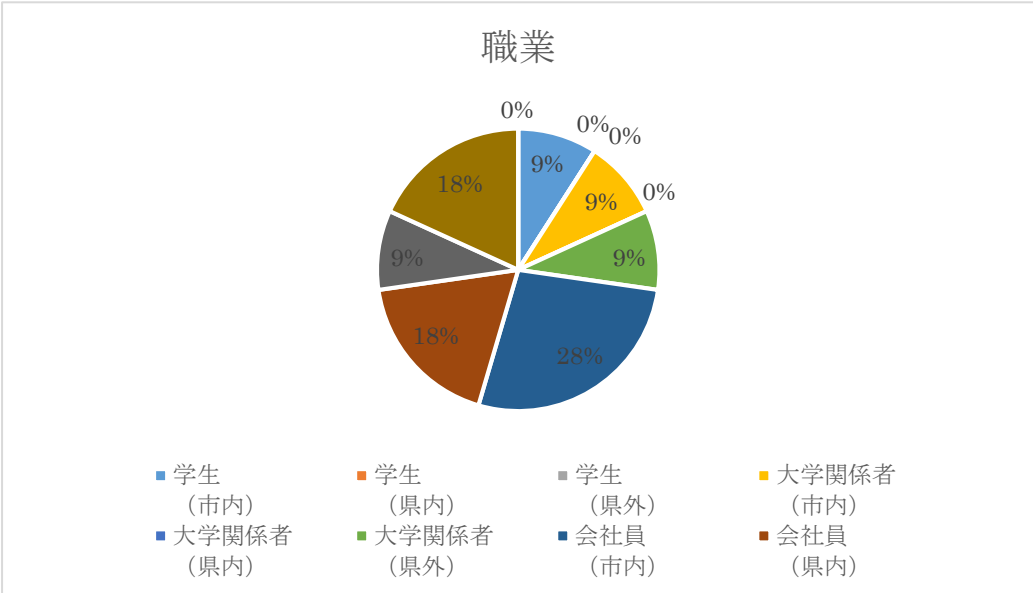
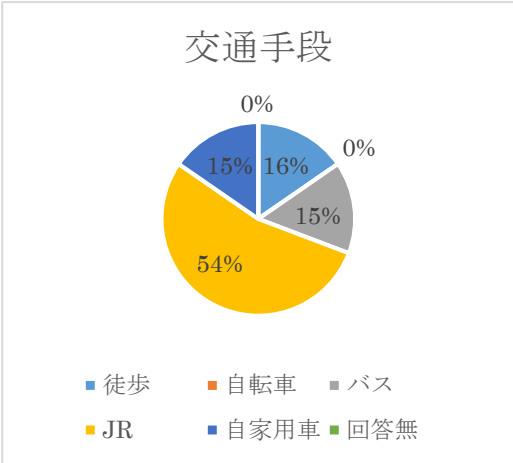
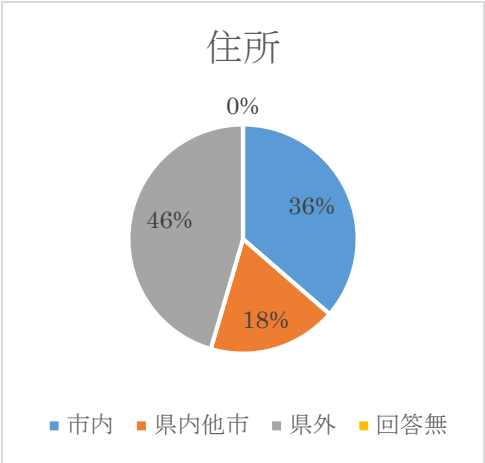
都市には長期スパンのマスタープランが存在することを理解しつつ、各自の可能な範囲で細やかにまちに働きかけていく取り組みが期待される。

(7) アンケートまとめ

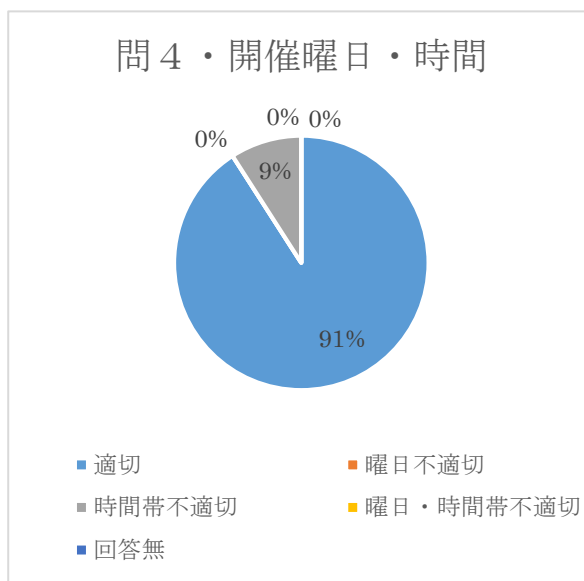
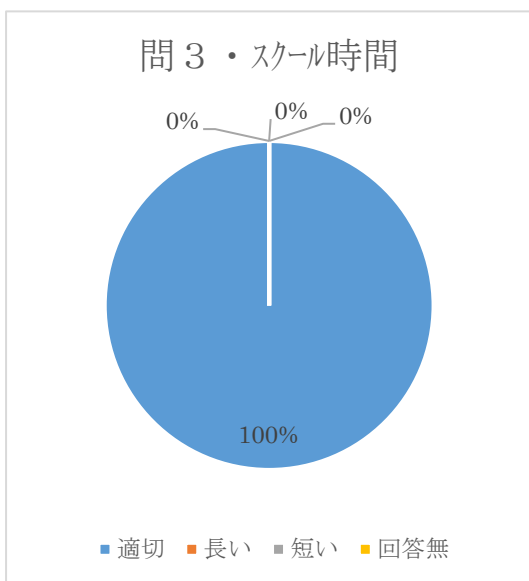
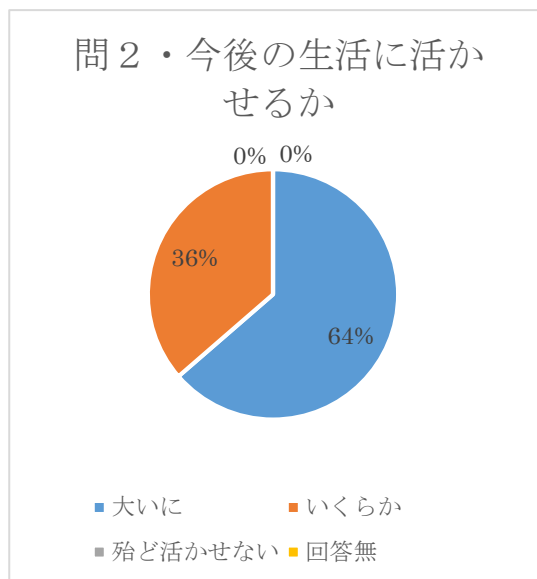
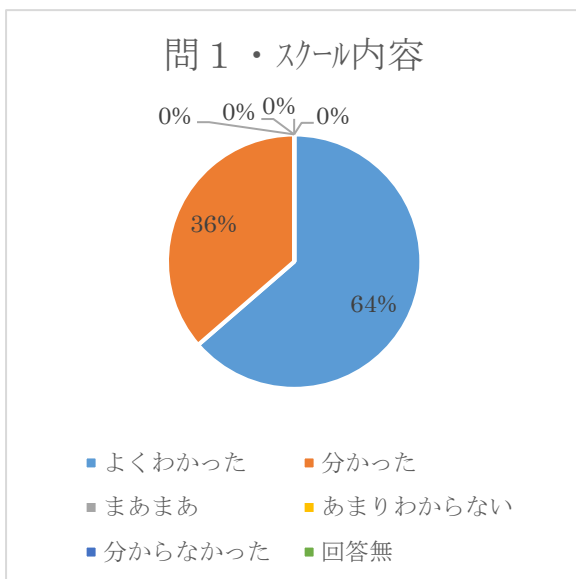
① 参加者属性

参加者15名のうち、アンケートに回答いただいた方は11名、回答率は73%だった。





② 内容について



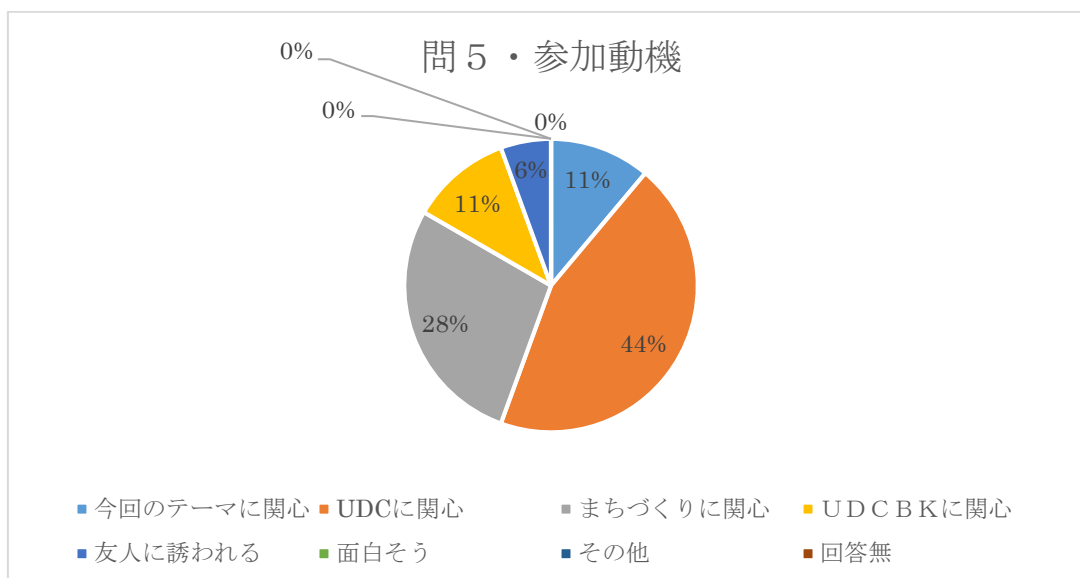
【自由記入欄回答】

問3. 時間はどうでしたか。

無し

問4. 開催曜日、開催時間は適切でしたか。

・ 19時以降 (60代男性)



【自由記入欄回答】

問5. 今回参加した動機についてお聞かせください。それぞれに関心のあるテーマについて御自由に記載ください。

- ・神戸三ノ宮の駅前（20代女性）
- ・交通環境を路線バス（民間バス会社）が通っていない地域でどのように確保していくか（20代男性）
- ・住みよいまちづくりのデザインとコミュニティのあり方（70代以上男性）
- ・アーバンデザインは何の為に有るのか？町がにぎわうことが良いことなのか？住む人の幸せとは？いろいろなことを考えたいです。年老いても、お金が無くても幸せな町づくり？（50代男性）

【自由記入欄回答】

問6. 今回、印象に残ったこととその理由をお聞かせください。

- ・アーバンデザインプランではなく アーバンデザインコンセプトという発想が良かったです。コンセプトは変化可能ですものね（50代男性）
- ・生活の豊かさが印象的でありました ありがとうございます。継続して企画、実践してほしい（70代以上男性）
- ・にぎわい至上主義は見直していかなければと感じた。そこにいて心地よい空間を見つけ、のこしていくことが大切だと思った（20代男性）
- ・スモールアーバニズム。少しずつ変えていった時に 上手く呼応するのが気になった。「まちかどレベル」という言葉がポップでかわいい感じで好きだった。効果を実感

しながら変えていく、というコンセプトはそこに生きている人にも直に嬉ばれそう（20代女性）

- 「道路空間の再配分」の際にお話いただいた“誰が主役かを明確にして再配分する”という考え方、アプローチは、アーバンデザイン以外の分野でも活かせる考え方だと思い、非常に勉強になりました（40代男性）
- スモールアーバニズムの実行の仕方「簡単に、すばやく、安く」が印象に残った。お金をかけなくても、仕掛けを作ればよいことが分かった（30代女性）
- 4車線の両サイドを人の空間とした例（元々が両サイドは駐停車に使われていて、道路として機能していなかったという点）（60代男性）
- プレスメイキングの話題が参考になりました。
マスタープラン不要論と漸進主義的マスタープランの変化。
マスターコンセプトとして、時代のニーズに変化できる仕組みが参考になった（40代男性）